

今週（1月27日から1月31日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週に引き続き調達ニーズが強く、堅調な地合いが続いたが、週末にかけては若干レートが低下した。日銀当座預金残高に大きな増減は見られず、概ね400兆円台前半で推移した。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に概ね▲0.065～▲0.010%程度の出合いとなった。週初27日から先週の地合いを引き継ぎ、積極的な調達姿勢が見られた。28日以降は調達水準を引き下げる先も一部に見られるようになり、徐々に出合い水準が低下していった。30日には前日のレポレートの低下もあってか、▲0.032%まで低下した。31日は月末にあたるため、ビッドを見送る先が多く見られた。▲0.065～▲0.020%と比較的広いレンジでの出合いとなった。ターム物に関しては、先週に引き続きオファーサイドの参加者が少なく、出合い辛い状況が続いた。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.170～▲0.025%程度の広いレンジで推移した。週初27日のGC T/Nは、▲0.080～▲0.065%程度、28日は▲0.090～▲0.075%程度、29日は▲0.155～▲0.100%と徐々にレートは低下した。30日は週末かつ月末にあたる取引となり、▲0.170～▲0.075%と広めのレンジでの取引となった。31日は3M物の入札後にレートが上昇し、▲0.09～▲0.025%での出合いとなった。

SCは、個別銘柄では2y 402～408、5y 139～142、10y 338～357、20y 169～171、30y 59～65、40y 11～12等カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給に改善が見られつつある中、短国買入オベが予想よりも多くオファーされたことや、ファンディングレートが一時的に低下したこと等を受けてか、3M物で▲0.130%、6M物で▲0.160%、1Y物で▲0.170%近辺で出合うなど、全般的に堅調なマーケットとなった。

28日に実施された短国買入オベは、市場予想よりも多い7,500億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.007%、按分落札利回較差+0.005%と、小甘い結果となった。

31日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.130～▲0.125%で出合う中、平均落札利回▲0.1257%、按分落札利回▲0.1203%と、小甘い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.140～▲0.125%出合いと堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末・月初を跨ぐ週となり、発行総額が1兆5,700億円程度にのぼるマーケットとなった。電機業態の大型償還があったこともあり、償還総額1兆7,400億円には及ばなかったものの、電力・鉄鋼・不動産等の幅広い業態が大型発行を実施する活況なマーケットになり、市場残高も引き続き22兆円台の高水準で推移した。31日の月末時点でも市場残高は22兆円台を維持したと見られ、リーマンショック前の2008年8月末以来の規模となった。発行レートは、高水準の市場残高を背景に荷もたれ感が強まっていることに加え、他市場のレート上昇の影響も受けCP保有によるキャッシュ潰しニーズは減退気味になっており、総じて上昇傾向が見られている。期内物に関しては優良銘柄であってもプラス圏で決着する案件が散見され、年度末越えの希少銘柄であっても若干のマイナス圏での決着が中心となっている。

28日にはCP等買入オベが事前予定通り2,500億円でオファーされた。ディーラーのCP保有ニーズが減退傾向にあることに加え、売却需要の強い銘柄が比較的多く採用された影響もあり、按分落札レート▲0.001%、平均落札レート0.002%と、按分落札レートは前回比横ばいながら平均落札レートでは前回比で上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
1/27（月）	23,343.51	△ 0.050	108.93	△ 0.019	△ 0.069	4,010,400
1/28（火）	23,215.71	△ 0.040	108.98	△ 0.020	△ 0.082	4,010,900
1/29（水）	23,379.40	△ 0.040	109.08	△ 0.025	△ 0.124	4,016,900
1/30（木）	22,977.75	△ 0.060	108.95	△ 0.032	△ 0.125	4,034,300
1/31（金）	23,205.18	△ 0.065	109.03	△ 0.039	△ 0.082	4,032,900

来週（2月3日から2月7日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/3（月）	2月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				12月の米建設支出 1月のISM 製造業景況指数
2/4（火）	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 1月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 2/5発行			12月の米製造業新規受注・出荷・在庫
2/5（水）	愛媛県金融経済懇談会において若田部副総裁講演	交付税借入 10,500億円 2/19借入			12月の米貿易収支 1月のISM 非製造業景況指数
2/6（木）	奈良県金融経済懇談会において政井審議委員講演	TB6M 26,000億円 2/10発行	30Y 7,000億円 2/7発行		
2/7（金）	12月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 12月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 12月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 44,400億円 2/10発行	エネルギー 対策借入 5,000億円 2/20借入		12月の米卸売売上高 12月の米消費者信用残高 1月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/3（月）	900	▲ 31,100	▲ 30,200	国債補完	200		200	▲ 30,000	税・年金保険料揚げの前倒し分 TB3M発行▲44400償還42700 2Y発行▲20000
2/4（火）	1,000	▲ 63,000	▲ 62,000				0	▲ 62,000	年金保険料揚げ 労働保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 社会保障費
2/5（水）	1,000	▲ 21,000	▲ 20,000				0	▲ 20,000	10Y発行▲21000
2/6（木）	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
2/7（金）	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	30Y発行▲7000 交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	2,900	▲ 120,100	▲ 117,200	—	200	0	200	▲ 117,000	

2/3は日銀予想、2/4以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、レート上昇の一服感はみられるものの、積み期後半に入ることや、4日に税揚げを控えていることから、引き続きビッドサイドの動向が注目される。レボ市場は、GC O/N物は、▲0.080～▲0.030%程度での推移を予想する。短国市場は6日に6M物の入札、7日に3M物の入札が実施予定となっている。6M物は発行予定額が26,000億円と前回より3,000億円の増額となっている。短国が増発傾向にある中、オペのオフアー額を含めて市場動向が注目される。CP市場は、2月に入り過去最高水準で推移している市場残高が、どの程度拡大するのかが注目される。また、上場企業の決算発表が本格的に始まり、業績動向が注視される。

主要なイベントとしては、7日の1月の米雇用統計が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入